事務事業マネージメントシート

真岡市行政評価システム 評価対象年度 平成24年度

作成日 平成25 年 05 月 15 日

事務	務事業名	芳賀:	地区緑化推造	担当			廷	建設部 都市	市計画課 紹	推持管理係						
E	対策名	D	自然と潤い		電話番号		0285-83-8724									
<u> </u>	施策名 04 自然環境の保全と保護							□ 実施計	画上の	の主要事業						
	基本事業名									■ 単年度のみ						
法	法令根拠 緑の募金による森林整備等の推進に関する法律				聿		事業期間	5	□ 単年度繰返(開始年度 昭和53 年度~)							
予算科目 1.一般会計 8.土木費 4.都市計			十画費	4.公園管理費			□期間限定複数年度(年度~ 年度									
緑豊かな自然環境を将来にわたり、保全・整備する幅広い給 委員会構成:都内各市町、JAはが野、郡内獺友会支部等。					\緑化運	 動を実施するため、会員	L として参画する	3。また	 た苗木の無料配布時に募金活動等を行い、緑化意識の高揚を図る。							
		安貝云	(伸成:都内容)	pml、JAIJJ/野、郁内:												
事	業概要															
	=117m1= •	→ □ /a	\ = 75=#6													
r)事務事業の	日的と指標		⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移										
①手段(主な活動) 24年度実績 緑の羽根募金、家庭用苗木の配布、各種コンクールを実施した。 市町村合併や県出先機関の統廃合による緑化推進体制が変化し、「市町						名称					21 年度(実績)	22 年度(実績)	23 年度(実績)	24 年度(実績)	25 年度(見込)	
						ア	緑の羽根の配布数			本	238	461	495	485		
環境	みどり推進	基機構、	の存在意義が低下してきたため、事業をとちぎ 板木県、各市町等へ移行することとし、平成													
25年3月31日をもって解散した。						1	家庭用苗木の配布数			本	250	250	250	450		
											_	_	_	_		
							各種コンクールの参加件数 			件	2	2	2	2		
25年度計画																
②対	象(誰、何を	対象に	しているのか)	*人や自然資源等		6対	象指標(対象の大きさを	表す指標)の推	<u> </u> {移							
	地区緑化推進					ア	名称 構成会員数		_	単位 団体	21 年度(実績)	22 年度(実績) 2 5	23 年度(実績)	24年度(実績)	25 年度(見込)	
							博 ル公見以			·····	23		23	2.3		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)							オ				:移					
市民の緑化意識の高揚を図る。							名称 緑の羽根募金		単	単位 円	21 年度(実績)	22 年度(実績) 46100	23 年度(実績) 49500	24年度(実績) 48500	25 年度(見込)	
							無の31代券並 苗木配布時募金		円		15093	14005				
						ウェ	ウ エ									
④ 結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか)							オ 8 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標)の									
受利者(これを利用人工)におり、2000年 緑化推進が図られ、住環境水準が向上する。							名称		単	単位		22 年度(実績)	-	24 年度(実績)	25 年度(見込)	
						1	真岡市をきれいなまちと感じ	3円氏の割合		%	73.4	74.0	70.2	69.7		
						ウ エ										
(2) 公中学典の世紀										-/	de)		- (#)		(833)	
(Z) #	(2) 総事業費の推移 単位 21 年度(実) 国庫支出金 千円						22年度(実績)	0	23 年度	支(実績	0	24 年度(5	足績) 0	25 年度	(見込)	
投 入 量	事業費		県支出金	千円			0	0			0		0		0	
	事業費別		地方債 その他	千円 千円			0	0			0		0		0	
		車業費	一般財源 計(A)	千円 千円		14	2 2			2 2		0	0			
	٨	正規項	哉員従事人数	Д		6	6			6	6		0			
	件 #		延べ業務時間 時間 人件費計(B) 千円				28	128 546			128 543		128 538		0	
(=)		ータルコ	スト(A)+(B)	千円		5	33	548			545		538		0	
			化・市民意見	,等 を将来に渡り、保全・	救借する幅庁	1 14ネイレジ	電動を宝施するため									
	の事務事業? きっかけは何			で付外に成り、休主・	正開りる相口	V 1234 1-75	重動を失肥するため。									
	ごろどんな約 されたのか。	怪緯で														
	务事業を取 り	_	二酸化炭素の	吸収資源対策として、	地球温暖化防	止のため	りに緑化推進の重要性が 芸智地区緑化推進委員会	曽した。平成16 全が果たしてき	年3月にた	は「	真岡市緑の基 取りまとめ役	本計画」を策	定した。 宇音義が低下し	てきたため	平成 2	
	(対象者や はどう変化		市町村合併や県出先機関の統合による推進体制が変化し、芳賀地区緑化推進委員会が果たしてきた「市町の取りまとめ役」としての存在意義が低下してきたため、平成2 5年3月31日で、緑化推進事業をとちぎ環境・みどり推進機構や真岡市等に移行し、解散した。 													
	か、開始時 5 年前と比 [・]															
	っったのか?															
③この事務事業に対し 毎年配布する苗木の種類を変えており、配布を受り て関係者(住民、議会、						けた市目	民からは大変喜ばれ、募金	金にも積極的に	協力を行	得てい	ハた。					
て関係者(住氏、議会、 事業対象者、利害関係 者等)からどんな意見 や要望が寄せられてい るか?																

1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 ①政策体系との整合性 □ 結びついている □ 見直し余地がある ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? 本参画事業により、真岡市緑の基本計画の目的である緑化推進に結びつく。 ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか? 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 妥当である □ 見直し余地がある ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? 緑化推進を図る必要性から妥当である。 ・税金を投入して達成する目的か? □ 適切である ③対象と意図の妥当性 ☑ 対象を見直す必要がある □ 意図を見直す必要がある 対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるか? 本参画事業は、緑化推進について、適切な各種事業が行われているので、向上の余地はない。 ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤廃止・休止の成果への影響 ■ 影響がない 影響がある ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 今まで、芳賀地区緑化推進委員会で実施していた緑化推進事業を、とちぎ環境・みどり推進機構や真岡市等で実施 する。 有効性評 ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ■ 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) ■ 類似事業はない ・他に、類似の形態の事務事業はないか? とちぎ環境・みどり推進機構参画事業 ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図る □ 他の事業と統合・連携ができる □ 他の事業と統合・連携できない ことができるか? とちぎ環境・みどり推進機構には、緑の募金や、とちぎ緑の基金等の緑化事業の推進があり、統合できる。 ⑦事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに事業費を削減できないか? 負担金は無いため削減余地がない。 (仕様や工法の適正化、住民の協力など) 効率性評価 □ 削減余地がない □ 削減余地がある 募金活動・苗木の配布・委員会出席等の必要最低限の人件費であり、削減余地がない。 ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど) 9 受益機会・費用負担の適正化余地 □ 公正・公平である □ 見直し余地がある 公平性評価 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? 市民の受益者負担は無いため、公平公正である。 ・受益者負担が公正・公平になっているか? 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 ■ 継続 芳賀地区緑化推進委員会が、緑化推進事業をとちぎ環境・みどり推進機構や真岡市等に移行させ、平成24年度末に解散した。 コスト 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか? 低下 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり コスト 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)